

■健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻カリキュラムマップ

リハビリテーション学科ディプロマポリシー（学位授与方針）

社会人としての一般教養、人間性や倫理性を身につけ、また保健・医療・福祉におけるヘルスケアを担う専門職としての知識と技術を身につけ、卒業後に専門職として活躍できる実践力と自己研鑽するための研究能力を磨き、広く社会に貢献できる人。

(1)人間性

1. 対象者ならびにその関係者に対し、個人の尊厳と基本的人権の尊重に基づき配慮し活動できる人間性と倫理感をもつことができる

(2)専門性

2. 基礎的知識：基本的な医学的知識を用い、人体の構造・機能について説明できる
3. 専門的知識：一般臨床医学の知識を用いて、心身機能に関わる病因・疾病・障害について説明ができる
4. 応用的知識：基礎的・専門的知識を用いて、対象者の問題点、その原因を統合・解釈し必要な治療プログラムを立案する
5. 実践能力：それぞれの臨床実習などで、評価、治療プログラムの立案、治療プログラムの実施を指導者のもと実践することができる

(3)社会性

6. 専門職として求められる役割とその責任を自覚することができる

(4)協調性

7. コミュニケーション力：様々な問題を抱える対象者ならび関係者の話を傾聴する。また、チーム医療をなす構成員の専門性を理解し、その意見を尊重しコミュニケーションを取ることができる
8. チーム医療：チーム医療の一員であり、他の専門職者と連携・協働しつつ、対象者の持つ医学的、社会的問題に対する情報を共有し、目標を達成するため自分の役割と責任を担い行動できる

(5)創造性

9. 論理的思考力：心身機能に関する基礎・専門知識とともに、社会的側面をも捉え包括的に対象者の問題を分析することができる
10. 問題解決能力：対象者の問題を分析、解釈をすすめ、医学的・社会的アプローチを立案し、実践することができる

(6)主体性

11. 自らの知識・技術・態度を評価し、絶えず自己研鑽をすることができる

科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)											
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	人体の構成要素としての細胞・組織学を理解する。さらに、個体の運動器系を構成する骨格系(骨格・靭帯)および筋系を中心に学び、人体の主要な骨格筋、骨や関節の特徴や構造を知り、作用を理解する。	1. 体の構成要素である細胞・組織学について説明できる。 2. 個体の運動器系を構成する骨格・靭帯・筋についての説明できる。	○	◎	○	○			○			△		
専門基礎科目	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰで学んだ筋骨格系を踏まえ、動きを指令する神経系や、動きを感知する感覚器系について理解する。また、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および尿下や排泄を含めた消化器系などについても理解を深めていく。	1)内臓の構造と働き 2)脈管系の構造と分布 3)神経系の構造と分布・作用 4)感覚器系の構造と働きについて説明できる。	○	◎	○	○			○			△		
専門基礎科目	解剖学実習	リハビリテーションに必要な骨・関節・筋肉に関して、骨格標本と人体模型を使い、形態と構造および機能を確認する。	1)骨格および筋肉の部位について具体的な名称と身体における部位を説明できる。 2)主要な関節(肩・肘・手・股・膝・足)の関節構成体を確認し、各関節の解剖学的な特徴がいえる。 3)主要な関節における筋の走行を確認し、筋の起始・停止・神経支配・機能を暗唱できる。 4)体表解剖にて臨床に必要な身体指標の触診と、その名称を覚え説明できる。	◎	◎										◎
専門基礎科目	人体生理学	身体機能に関し、正常な機能とその仕組みについて理解を深める。基本単位となる細胞レベルから生体のいろいろな働きを分担する器官、さらにそれらが互いに協同し合う高度なシステムをなし、生命は維持されている。このように生理学の範囲は非常に広範であり階層をなす学問であり、生命維持活動における個々の役割を理解し、病態学・障害学との関連を理解する。	神経系の構造と機能について説明ができる。 運動器の構造と機能について説明ができる。 呼吸・循環の構造と機能が説明できる。 消化・吸収・排泄に関する器官の構造と機能が説明できる。			◎	○								
専門基礎科目	人体生理学実習	生体の生理機能に関し、実習を通して学ぶ。	運動時の生体反応を説明する事ができる。 神経系の解剖、生理について説明でき、神経伝導速度の測定理論が説明できる。 心電計を操作し、安静時の心電図を測定することができる。 スパイロを操作し、肺機能検査を実施することができる			◎	○								
専門基礎科目	運動学Ⅰ	身体における様々な運動や動作に関する基礎を学ぶ。解剖学や人体生理学で学んだ知識、特に四肢、体幹の構造および機能をはじめ、呼吸、循環、代謝、神経系、感覚器系の基本知識とも関連づけ、姿勢、運動、動作の分析・解釈へと結びつける。	1. 身体運動のメカニズムを力学の観点より説明できる。 2. 様々な姿勢、運動、動作を基本用語を用いて表現できる。		◎	○									○
専門基礎科目	運動学Ⅱ	解剖学・生理学・運動学Ⅰにて学んだ身体的基本的な構造と機能の知識を踏まえ、各機能と身体運動の結びつきについて、自ら考え、説明できることを目的とする。臨床における各種疾患の運動・動作の理解へとつなげていく。	1. 解剖や運動学を基礎として、身体の運動に関する事象を多角的な視野で説明出来る。 2. 身体運動を担う筋骨格系の機能について学び、その機能と動作との結びつきについて考え、解剖学的・運動学的な用語を用いて説明できる。		◎	○				○					○

専門基幹科目L群	リエゾンゼミⅣ (専門演習Ⅱ)	4年次前期から始まる作業療法実践実習Ⅱに先立ち、作業療法の介入プロセス(評価、介入、再評価、再計画など)に関して、学内授業で学んだ基本的な知識や技術の総合的な演習及び実習を行う。また、これまでの臨床実習において、各学生が経験してきた内容をグループ演習で振り返り、他の学生へ伝達する。臨床実習終了後には、学生が経験した事例について、介入の意味やその有用性に関して議論する。また、作業療法実践実習Ⅰ・Ⅱで経験した事例についてさらに検討しまとめる。		◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ○ ○
専門基幹科目A群	作業療法概論	作業療法の意義と作業療法士の役割を知り、作業療法の多様性を理解する。歴史、定義、医療・福祉・保健分野での実践を学ぶことで作業療法の過去、現状、今後の発展などについて学ぶ。専門職を目指す学生としての意識を高め、「作業療法とはどのような仕事をするのか」という疑問に答えられるようにする。	1. 作業療法(定義、実践領域、対象、具体的内容など)について説明出来る。	○ ○ ◎ ○ ◎ ○ ◎ △ △ ○
専門基幹科目A群	作業科学Ⅰ	人と作業と環境の関係から人間の健康を考える基本的な視点を学び、作業の重要性に関して説明できる事を目的としている。	1. 人と作業、環境と健康の関連性を理解すること 2. 作業療法の基本的考え方(理論)について理解すること	◎ ○ ○ ◎ ◎ ○ ○ ◎ ◎ ◎
専門基幹科目A群	作業科学Ⅱ	作業科学の基本的な視点・理論と生活機能モデルの関連性を整理し、作業の有用性を生活機能や生活行為との関連から説明できること、並びに作業を用いた介入法について理解することことを目的としている。	1. 作業科学Ⅰで学んだことと評価実習で経験したことの統合 2. 作業遂行および作業ニーズの評価法と介入法を理解する 3. 生活に関連する作業を再認識する	◎ ○ ○ ◎ ○ ◎ ○ ○ ◎ ◎ ◎
専門基幹科目A群	健康と作業	作業活動のプロセスと同時に作業療法を行う際の視点を学ぶ。また、ひとの健康的な生活を維持するためには、作業は必要不可欠なものであることを念頭に、作業活動の特性および治療的意義についての理解を深める。	1. 作業療法手段として用いられる代表的な活動について、実習を通して道具の管理、基本技術を身につけ、実践できる。	○ ◎ ○ ○ △ △ △ ○
専門基幹科目A群	生活と作業	人間の作業行為に関する生物学的、心理的、社会的、文化的関係の知識と技術の体系を習得するために、ひとが生活を維持するために必要な代表的作業の講義・実習を通して、作業の知識、技術、応用工夫、指導法を学習する	1. ひとの生活と作業活動の治療的意義について理解する。 2. 作業活動の特性を分析する視点を理解し、説明できる。 3. 作業活動に必要な工程・技法を体験し説明できる。	◎ ○ ○ ◎ ○ ◎
専門基幹科目A群	作業の評価と実践	ひとと作業活動の関連、諸科学と作業療法の結びつきを理解し、作業療法的手段として適用するための作業分析方法、指導法を学習する。さらに作業分析を行い、その治療的応用について学ぶ。	1. 運動について生理学解剖学運動学等の視点で分析することができる。 2. 動作についてひとの動きと環境との関係性について分析することができる。 3. 行為について心理的社会的文化的等の視点で作業分析することができる。	◎ ◎ ○ △ ○ △ △ ◎ ○ ◎
専門基幹科目A群	国際作業療法学	日本の文化や制度とは異なる多様な背景をもつ対象者への作業療法について学ぶ。国際社会における医療や健康に関する問題や人権に関する現状と課題を理解するとともに、JICA海外協力隊や各国で取り組まれている作業療法士の活動を具体的に理解し、国際的に実践するための基礎的素養を身につける。	① 世界の作業療法の現状(概要と実践・教育)を理解する ② 作業療法士の国際貢献の実態について理解する ③ 国際情報に触れる方法について理解する ④ 国際交流について実際に触れてみる機会を得る	○ ◎ ◎ ◎ ◎
専門基幹科目A群	作業療法管理学	作業療法の職業管理において求められる管理業務の基本と臨床教育の基本を学ぶ。管理業務では、診療報酬や介護報酬、診療記録と書類管理(電子カルテを含む)、他職種との業務調整(処方内容の確認、他職種への申し送りなど)、作業療法機器の保守点検や安全管理、職場環境デザイン等について学ぶ。また臨床教育では、後進の育成に関する方法として作業療法士養成教育の歴史や参加型臨床実習や生涯教育制度などについて学ぶ。	1. 作業療法の実施に必要な診療報酬、記録について理解する 2. 他職種との業務調整について理解する 3. 種々の危機の保守点検と安全管理について理解する 4. 後輩育成としての臨床教育について理解する	◎ ◎ ◎ ○ ○ ○
専門基幹科目A群	作業療法評価学総論	2年時以降の作業療法評価学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの基礎であり、作業療法評価の基本的な概念や生活機能の評価の基本的な視点的理解と面接や観察といった全領域に共通する評価技術の経験し、評価の重要性と視点に関して説明できることを目的としている。	1. 評価の概念と評価法の概要を理解する。 2. 面接や観察といった全領域に共通する評価技術を実習を通して理解する 3. 身体障害領域の評価技術の一部(関節可動域)評価法、バイタルサインなど)習得する	◎ ◎ ◎ ◎ ○ △ ◎ △ ◎

専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅰ	感覚・運動器、神経機能に関する基本的な検査法を学び、実施方法を習得するとともに、その目的を理解し対象者へ適応する際の基本的な留意点を学ぶ。	①検査目的、方法、留意事項を理解し、説明できる。 ②健常人を被験者として、適切に実施できる。 ③検査方法に関する疑問を教員に質問することができる。	◎	◎	○												△	○	○
専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅱ	作業療法評価の目的を理解し、面接、行動観察、検査法等の、1)精神機能評価、2)高次脳機能評価の具体的方法を学ぶ。その際必要となる対象者への配慮、留意点などについて実際に考えながら演習を行う。さらに、評価手段の実施によって得られた情報のまとめ、解釈などの学習も深める。	1.高次脳機能評価法と精神機能評価法を実施出来る。 2記録や評価のまとめを適切に書くことができる。	◎	◎	◎	○			◎	◎	◎	◎							◎
専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅲ	ライフステージの中でも、小児期から青年期までに焦点をあて、運動発達、精神発達、ADLの発達の側面における作業療法評価および支援について、知識および評価技術を習得することを目的とする。また、感覚統合理論を理解し、遊びを感覚統合的視点から分析を行う。座学における講義のみではなく、実技を通して、より主体的に動くことができるようになるといった行動目標の達成も狙う。職業関連における評価および就労支援については、学生自身の職業観などディスカッションを通して学び、障害者への支援の在り方を導くことを目的としている。	1.発達領域においての基礎的な評価の知識を適切に述べることができる。 2.運動面、認知面、感覚統合面など様々な視点での評価を実施することができる。 3.就労支援について、職業前評価の理解および技術を経験し、実施することができる。 4.領域ごとの就労支援について、理解を深め、説明できる。	○	◎	◎	○			○	○	◎	○							○
専門基幹科目A群	作業療法の介入と適用	作業療法の対象となる代表的な疾患や障害特性、回復段階の異なる複数の事例について作業療法評価をまとめ、それらを基に作業療法の介入の可能性について議論し検討する。演習と発表を通して、学習を深めていく。	1.作業療法プロセス理解し、事例について評価のまとめをICFで行うことができる 2.事例についての作業療法計画を立案できる。 3.パワーポイントを適切に用いて発表できる	◎	○	◎	◎			○	◎	△	◎							◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅰ	身体障害領域における作業療法の役割やプロセスを理解すると共に、実践で活用されている心身機能の改善に有効な理論や概念に関して、その実践的技術を含め介入の有効性を理解できることを目的としている。	1.身体障害領域で用いられる基礎解剖学等の知識を持つ 2.身体機能を改善する理論や実践的技術の一部経験する 3.整形外科疾患を中心とした作業療法の介入の視点を学ぶ	◎	◎	◎	◎			◎	○	◎	○							◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅱ	身体障害領域で関わることの多い主要な疾患(脳血管疾患、神経筋疾患、脊髄損傷等)とその障害について学ぶ。また、作業療法の適用の理論、介入の原理や治療技法の原則について学ぶ。	1.脳血管疾患の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を理解できる。 2.神経筋疾患の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を理解できる。 3.脊髄損傷の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を理解できる。	◎	○	◎	◎		○	◎	△	△	◎							◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅲ	各疾患の症状・障害の特性、経過、介入の流れ、考慮すべき事象など、学生自身が調べながら他の学生に教授する方法(Problem Based Learningの学習法)により理解を深める。	1.作業療法身体障害領域で対象となる疾患について理解し、作業療法評価・介入、理論の適応に関して説明できる。	○	◎	◎	◎			△	△	△	○							○
専門基幹科目A群	精神障害と作業療法学Ⅰ	精神障害の作業療法の諸理論や介入モデルを取りあげ学習する。そして、それらの学習を通して精神障害者の社会適応が可能となるような作業療法を考える視点を養い、作業療法士としての対応を考えられるようにする。	1.精神障害に対する作業療法の諸理論について理解し、説明することができる。 2.他者の話を傾聴することが出来る。・理解できない事を自分で調べる事が出来る。 3調べても分からない時は教員に質問することができる	○	○	◎	◎			◎	◎	○						△		○
専門基幹科目A群	精神障害と作業療法学Ⅱ	精神障害領域で対象となることが多い疾患についての作業療法の実践過程と具体的方法について学ぶ	1.精神疾患と生活障害との関係を理解し、その特徴と回復段階に応じた作業療法について説明、実施できる。 2.臨床事例の評価、計画立案について、具体的に説明、実施できる。	○	△	◎	◎			○	△	△	◎							◎
専門基幹科目A群	小児期の作業療法学	発達障害における疾患特性について、知識を整理し、介入技術を実際に提供できるようにすることを目的としている。そのため、講義のみだけでなく、実技の経験授業内で経験できるようになることを目指している。また、事例検討をグループディスカッションを通して、学生同士が学びあい、臨床像を把握することを学ぶ。アクティブラーニングの形態や、映像を参考にすることで学生がディプロマポリシーに掲げている、問題解決能力などを習得できることで、対象児の将来像を創造できるようにする。	1.発達障害領域で、作業療法士が対象とする疾患の特性を理解し、説明することができる。 2.各疾患の病態の時期に応じた、介入の知識を説明する事が出来る。また、介入技術を実施する事が出来る。 3.介入技術に関しては、実技練習を通して一定の技術提供を実施する事が出来る。	○	◎	◎	◎			○	○	○	○							○

専門基幹科目A群	高齢期の作業療法学	健全な高齢者、疾病や障害を抱えた高齢者など様々な「生活」がある。高齢者について、「世代：社会背景や加齢に伴う機能の変化、ライフサイクル」と、「個人：人柄や生活歴、家族や人々との関わりという個性」を尊重した視点で理解し、対象者と取り巻く人々の安寧に役立つ作業療法支援ができることを目指す。	1. 高齢者の心身機能や発達課題の面から特性を理解し説明できる。 2. 高齢者を取り巻く人的・制度的な環境も含めて、一人の人間として全体像をとらえ、記述できる。 3. 作業療法の対象となることが多い高齢期の疾患について基本的な役割を理解し、作業療法が計画できる。 4. 予防から自立支援、作業参加の推進まで、高齢者に対する作業療法の役割を理解し説明できる。 5. 情報収集や評価を行うための基本的な技能である、交流技能の基本を経験し実施できる。	○	○	△	◎	△	◎	○	△	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	高次脳機能障害と作業療法学	高次脳機能の障害や治療についての基本的知識を学ぶとともに、種々の評価技術を学び、対象者の生活行動上の問題を検討しながら作業療法アプローチの基礎を学ぶ。	①各障害の概要及びリハビリテーションについてを説明することができる。 ②各障害の作業療法について、グループで事例検討を行い、レポートにまとめることができる。	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
専門基幹科目A群	生活技術学	障害を抱えながらも主体的生活を送るための支援技術として作業療法士が活用する生活や代償技能、環境調整などに関する評価と支援の視点に関して説明でき、実際に評価技術を身につけることを目的としている。	1. 日常生活の概念と評価法を理解し、評価法を実践できる 2. 生活を分析する能力を持つ 2. 新鮮な技術として精神障害と関節リウマチによる障がい者への支援の視点を理解する	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	生活技術学実習	障害別に日常生活活動の各動作の特徴と援助方法を理解し、対象者が必要とする日常生活活動や社会活動を支援するための評価、介入方法、指導方法について学習する。	①授業で取り上げる障害の生活上の困難さを理解し、説明できる。 ②各障害モデルを自身で模擬的に演じることができる。 ③各障害に対する生活活動の基本的な援助技術を習得し、模擬患者(学生)に対し援助することができる。	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○
専門基幹科目A群	テクノロジーと作業療法学Ⅰ	義肢装具に関わる基本的な作業療法について理解する。義手の基本的構造や適合判定、筋電義手、義足について理解する。疾患ごとの装具について理解し、適用となる一部のスプリントについて理解し、作成するための基本的技術を習得する。	1. 義肢装具を用いた作業療法を理解する 2. 義手の基本的構造を理解し適合判定ができるようになる 3. 一部のスプリントの作成技術を習得する	△	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
専門基幹科目A群	テクノロジーと作業療法学Ⅱ	リハビリテーション関連機器やICT(ソフトやデバイス)、また先端的なテクノロジーの作業療法への応用例について学ぶ。	1. ICTやリハビリテーション関連機器について理解する 2. 先端的なテクノロジーの作業療法への適応について理解する	△	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
専門基幹科目A群	作業療法実践基礎論	これまでに学修した臨床実習での経験をもとに、作業療法評価、作業療法の方針や目標、介入計画立案について学ぶ。	1. 模擬事例について、評価計画、介入計画の立案ができる	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
専門基幹科目A群	地域生活支援学Ⅰ	地域リハビリテーションの理念を学び、地域での他職種を含む実践事例を通して、対象者本人や家族、多職種との協業の中でどのように作業療法の知識と技術を生かしていくことができるかを探求する。在宅生活支援の一部として住環境調整の基本的な知識を学ぶ。	1. 地作業療法の現状と視点を理解し、説明できる。 2. 在宅生活を援助する作業療法の役割を理解し、説明できる。 3. 住宅改修の内容と障害適用について理解し、説明できる。	○	△	△	◎	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	地域生活支援学Ⅱ	当たり前のようにしている「生活」を作業の視点でとらえることを目指す。改めて人が作業をすること＝「暮らし」を見つめるための演習や、環境調整の技術の一つとして、福祉用具や自助具についても理解を深める。また、地域の社会資源にも目をむけ、生活支援に活かすための情報収集についても演習を行う。	1. 地域生活を作業の視点で理解できる 2. 福祉用具や自助具の概要を理解する 3. 社会資源を理解する	○	△	△	◎	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	就労と就学支援論	就労や就学に関する基本的な作業療法について学ぶ。職業やキャリア発達、就労や就学支援に関する理論や制度を理解する。またそれらに関する作業療法評価と障害ごとの作業療法について学ぶ。	1. 就労に関わる作業療法を理解する 2. 就学に関わる作業療法を理解する 3. 就労・就学に関する制度を理解する	◎	△	△	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	作業療法研究法	作業療法士の研究活動の意義とその基本的な研究の流れや、研究デザイン、研究計画の立案、文献検討、データの収集方法とその解析方法、研究の公表方法を理解し、卒業研究等の研究活動で活用する。	1. 研究の意義と実際の流れを理解する 2. 研究に関連する用語・研究方法を理解し、研究計画を立てる 3. 情報処理の方法を経験する	◎	○	○	◎	◎	△	○	○	◎	◎	◎

